

令和元年度 第3回熊本市小中一貫教育検討委員会議事録

日時：令和2年1月29日（水）10：00～11：45

場所：ニッセイ・ウェルス生命熊本ビル7階会議室

○議事録

- 1 開会
- 2 教育委員会挨拶
- 3 議事 「熊本市小中一貫教育の在り方について」

古賀座長	第3回熊本市小中一貫教育検討委員会を始める。今日の議題は、小中一貫教育モデル校の実践報告、そして、指導課より調査結果、令和2年度のスケジュールについてである。最初に、小中一貫教育研究モデル校から実践の報告をお願いする。 （河内校区及び向山校区の今年度の取組に関する説明 省略）
事務局	向山校区の子どもたちにおいて、算数・数学の分野で学力の分析をされていたが、苦手な分野等があったのか、その後どのように対策をしているか。
荒木委員	算数・数学において、数の領域に課題があり、力を入れていくべきだと中学校の先生から話があった。小学生もその観点で見たところ、小学校でも同様の傾向が見られたので、小・中学校が共通して取り組んできた。モデル校発表会でもそのことを意識して研究授業を行った。
古賀座長	次に、指導課からの説明をお願いする。
事務局	12月調査の結果及び令和2年度のスケジュールの2点について説明する。 （指導課からの説明 省略）
塩津委員	中1が顕著に伸びており、とても良い結果になっている。中一ギャップといわれる中で、このような結果が出ていることについてどう考えているか。
小田委員	非常に滑らかな接続ができていると思う。小学校から中学校の数学へ、中学校から小学校の音楽や家庭科等への乗り入れ授業ができおり、良い結果に繋がっていると思う。
古賀座長	それでは、全体を通して意見交換に入る。前半の実践報告について意見はないか。
小田委員	荒木委員から、日常化という言葉が述べられたが、全職員が一緒に研修をして、同じ方向を向いて取り組むことが大事であると思う。来年度は、日頃から連携ができればと思っていて、教科ごとに動けば学力充実も深まるのではないかと思う。小中の職員が互いに動ける時を見つけて行き来し、全職員が動きながら日頃からできることを増やしていきたいと考えている。
事務局	Aグループを中心に小中一貫教育を進めてもらっているが、今後1小1中だからできるのではなく、複数の学校になる場合でもこれはできるといった実践があれば教えてほしい。もしなければ、来年度はそういった視点をもって取り組んでいただきたい。

古賀座長	複数の小学校から1つの中学校に行く場合の推進の在り方について意見はないか。
荒木委員	モデル校発表の時は、1小1中で、しかも歩いて行ける距離だからできることではないかという意見もあった。どこへ向かうかという視点をもつことが大事だと思う。子どもの実態を受けた上で進むべきところを見つけ、どこへ向かうかが見えれば、いくつ学校があってもできることではないかと思う。昨年度は1小1中であつても壁を感じていた。今年度は、企画運営委員会で提案し、先生方に説明して納得した後に進めるという仕組みにしたところ、実際の動きが変わった。昨年度は、3学期のまとめを管理職が提案して行つたが、今年度は、先生方が来年度へのつなぎのために必要性を感じ、自ら進めている。学校の数よりも、意識が変わることが重要ではないかと考えている。ただし、推進役やコーディネーター等の調整役の存在は必要であると思う。
中嶋委員	河内校区も学校同士が近いのでできたことではないかという意見があつた。年3回の「幼小中連携の日」をうまく繋げることから取り組んだ。授業参観と情報交換だけでなく、3回の会の中で、それぞれの部会で目標を決め、実践し、その後の検討を行つた。また、コーディネーターがしっかりと動かなければ機能しないと思った。
小田委員	本校区では推進部会を設置し、校長、教頭、コーディネーター、研究部長で集まる機会を設けている。複数の小学校の場合でも、1年に1〜2回隣接する学校で集まることはできないだろうか。
荒木委員	熊本市では、「幼少中連携の日」が3回位置づけられているが、先生方はそこで情報交換をするという意識だと思う。江南中校区では、その3回の小中連携の日を合同研修の日と位置づけて取り組み、3回の研修に繋がりをもたせている。また、必要であれば、さらに会を設けるようにしている。
上妻委員	本校はCグループになる。本校区は3つの小学校から本校にやってくる。3つの小学校も、それぞれ2つの中学校に行くことになっている。「幼小中連携の日」は、人数の多い2つの小学校に分かれて授業参観、情報交換を行っている。目標の明確化という点では、9年間のまとめである中3卒業時の姿を目指す姿として考えている。本校であれば、メインの小学校に焦点を絞っていかないと取組が難しくなると思う。1つの小学校から2つの中学校に行く場合、目指す姿をそろえていくことは不可能だと思う。ある程度メインの小学校を決めておいて、取り組みを密にしていき、その他の学校とは取組を共有していくというものでなければ難しいと感じており、ある程度割り切りも必要かと思う。メインの小学校とは、1小1中の取組が参考になると思う。
塩津委員	グループ連携という考え方もあるがそれはどうか。
上妻委員	現実的に見れば、規模が大きくなりすぎる。取組が少しずつ重なっていくことになるので、そうなると区全体といった考えになるのかと思う。
古賀座長	小中一貫校の先生方が、小中一貫教育のノウハウをもって次の学校に異動した時に、それまでの経験を生かした実践を広げていくというように、3年ぐらいのスパンで考えていくことも必要だと思う。メインを絞って連携をしていく

	という考え方は、5～6年前からその議論はあったが、その時に心配されたのは、小学校の保護者の理解である。丁寧に説明しながら、教科や活動に焦点を絞って小中一貫教育に取り組んでいくことも、信頼関係を保つためには有効であるのではないかと思う。
西本委員	幼小中連携の日が3回あるということだが、保護者の立場からすると何があるのか分からない。保護者への情報も与えてもらおうと、小中でのつながりが見えてよいと思う。
事務局	保護者が情報を得る機会について、今後検討したい。
西本委員	このアンケート調査は、中一ギャップの軽減を把握できる内容ではないと感じる。
事務局	他都市の小中一貫校で実施している調査では、中1ギャップや不登校に関する質問項目は少ない状況であった。今後どのようなものが適当であるかを検討していきたい。
上妻委員	小中一貫教育という観点から外れるかもしれないが、両方の校区とも、幼稚園との連携があると聞いた。生徒指導や不登校などの観点から見ていくと、幼稚園の時期の接し方が重要になると思うので、保護者の方々に9年間の見通しをもってもらうことが必要ではないかと思う。中学校の立場から幼稚園の保護者の方に話をすることができれば、子供たちがもっと楽になっていくのではないかと思う。
松崎委員	保護者の代表という立場で参加させてもらっているが、Bグループに属する小学校の保護者である。保護者の中には、小中一貫という言葉すら知らない保護者も多い。早い段階から保護者にも小中一貫の流れを伝えていただき、保護者も理解しておく、B・Cグループもスムーズに進んでいくのではないかと思う。先生方や子供たちが頑張っておられるのに、保護者が知らないことで壁になってはいけないと思う。
西本委員	龍田校区では、中学校でどんどやを行っている。土曜授業なども絡めて考えてはどうか。
古賀座長	幼稚園との連携という点で、楠校区などの公立幼稚園があるところを一つモデル校にしてはどうだろうか。小中一貫教育の推進に向けて私たちは検討しているが、3歳ぐらいから12年間の子どもの育ちを見ていく必要もある。また、子どもは連続した育ちの中で生きているわけなので、保護者とも連携しながら進めていく必要もある。富合校区でも小中一貫の考えが取り入れられた15年前には、保護者から強い反発があったが、3年間でその意識が変わっていった。16年目に入る今年、これからの5年間をしっかりと考えていかないといけない。来年度は、事務局から出された基本構想案に着手されるということだが、皆様からいただいた課題を丁寧に解決しながら検討を進めることをお願いしたい。これで議事を終了する。

- 4 事務連絡
- 5 閉会